(法第26条関係「定款変更認証申請」)

(法第28条関係「書類の備置き」)

(法第29条関係「事業報告書等の提出」)

令和2年度の事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人 母と子の虹の架け橋

1 事業の成果

(1) 虹の家

小規模保育所 B型として 0歳児~2歳児の保育を継続。定員 16名。

保育室1室の中で月齢の異なる子どもが生活しているため、2歳児が0歳児、1歳児の面倒を見るなど微笑ましい光景を目にすることも多かった。また、当園では四季を問わず全員が裸足で一日を過ごし、体力づくりや自然観察を兼ねて、天気の良い日には散歩に出掛け季節を感じている。

全面自園内給食を提供しており、季節や行事に合わせたメニューや、栄養バランスのとれた食事を心掛けている。薄味を基本とし、年齢別に食べやすい大きさ、柔らかさに気を配り、彩りを考え、目で見て食欲をかきたてるよう工夫をした。

新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年来所して下さる「ミュージック虹」と埼玉県の「虹の会」は活動自粛となり、ボランティアの来所はなかった。園でも、例年以上に感染症対策に努め、職員のマスク着用や検温、手洗いはもちろんのこと、換気や消毒、除菌を徹底して行った。

令和2年度は、平田子育て支援センターにてクリスマス保育参観を行った。通常保育のように朝の会での呼名、普段から親しんでいる手遊びや体操をしたが、園とは違う初めての空間で場所見知り、人見知りする子どもも多く、初めは親と離れがたい様子も見られた。その後は、センターの特徴である木のおもちゃに触れてもらう自由時間を長く設定し、親子で一緒に楽しんだ。子ども達も徐々に笑顔を見せ、広い空間でのびのびと遊ぶことができていた。職員が各家庭を回って園での様子、家庭での様子を話したり、保護者同士での交流も見られ、有意義な時間となった。

また、当園は浸水区域にあるため、中妻地区の津波災害緊急避難場所が八雲神社境内に指定されたことを受け、登園でもそれにならい、避難場所を昭和園クラブハウスから八雲神社境内へ変更した。境内までの道のりは急勾配で土砂が崩れている部分もあり、未満児には険しそうであったため、職員のみで境内まで避難経路を歩いて避難時間の計測を行い、危険箇所の調査を行った。例年、東日本大震災が発生した3月には地震の避難訓練を行っているが、避難経路の確定、安全性の確保が不十分なため、今回は八雲神社付近への避難訓練となった。

(2) ベビーホーム・虹

小規模保育所 B型として 0歳児~2歳児の保育を継続。定員 12名。

月齢、年齢的には身体的行動力が大きく異なる。しかし、保育室がほぼ1室であることから、全員が同室での生活であるため、注意深く見守るよう努めている。

小佐野へ移転してから3年になるが、子ども達から元気をもらいながら、地域、市、連携施設の協力をいただき、事故もなく保育事業を行うことができた。

令和2年度の行事は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度2回行われたが1回となり、12月に親子ふれあいクリスマス会を初めて場所を変えて、園より広い平田子育て支援センターで行った。アンパンマン体操やリズム遊びとして保育者がオオカミになり「オオカミさん」を、親子で一緒にふれあい遊ぶことができた。お制作は、トナカイさん、クリスマスツリー2枚を画用紙に子ども達の手形を使い作った。保護者の方からは、手形を使うことを喜んでいただいた。センターのおもちゃ

で自由遊びの時間もとり、広い空間でたくさん遊ぶことができ、帰りたくないという子もいた。コロナ禍ではあったが、子どもや保護者、職員も楽しめるクリスマス会を開くことができた。

(3) 平田子育て支援センター

令和2年4月1日より、釜石市の委託により事業を開始。

コロナ禍の中、休館をせざるを得ない状況も何度かあったが、1年間で延べ 1,630 人の利用をいただいた。午前、午後ともに5組までの利用制限をし、密にならないよう常時換気や、1日に2度の除菌作業を徹底し、感染症予防にも努めながらの開所となった。

なかなかイベントの実施が思うようにできなかったが、日々、利用者と子ども達と接する中で、相談を受けたり、保育サービスに関する情報を提供したり、釜石市や地域の保健師と連絡を取り合い、保健師の方にも定期的にセンターにいらしていただくなど、関係機関との連携、協力体制も整えることができた。

下半期は、ヨガ、アロマなど、ママのリフレッシュに繋がるイベントや、親子で楽しめるリモートコンサートなど、徐々に活動の幅を広げてていくことができた。1年目ということで、支援機能の充実を図るため、センター内研修や、外部講師によるスタッフ研修も行い、職員の共通認識の確立や質の向上に努めた。

(4) ファミリーサポートセンター

令和2年4月1日より、釜石市の委託により事業を開始。

ユーザー登録者数 32 名、サポーター登録者数 11 名。サポーターの実質稼働人員は、主に当法人の職員となっている。

受託 1 年目、新型コロナウイルスの影響もあり、イベント託児はなかったが、計 55 回の活動を行った。ユーザー宅、サポーター宅、法人事務所、平田子育て支援センターを預かり拠点としているが、約 7 割の活動が子育て支援センターでの預かりだった。依頼理由としては、保護者のリフレッシュや通院、求職活動の際の預かりが 9 割を占めている。

会員相互の交流会や情報交換等については、新型コロナウイルスの影響によりすべて開催は中止となった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施 場所	従事 者の 人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費 の金額 (千円)
支援を必要 とする人々 を支える事 業	「虹の家」 小規模保育事業B型	$31.4.1$ \sim $2.3.31$	虹の家	10人	6ヶ月〜2歳児 の待機児童 (104名)	48,652
	「ベビーホーム・虹」 小規模保育事業B型	$31.4.1$ \sim $2.3.31$	ベビーホーム・虹	10人	6ヶ月〜2歳児 の待機児童 (102名)	40,002
子ども・子育て支援事業	「平田子育て支援センター」 地域子育て支援拠点 事業	31.4.1 ~ 2.3.31	平田子育て支援セ ンター	9人	1ヶ月~未就 学児、保護者 (1,630 人)	8,397
ファミリー サポート事 業	「ファミリー・サポ ート・センター」 ファミリー・サポー ト・センター事業	31.4.1 ~ 2.3.31	ユーザー宅、サポー ター宅、法人事務 所、平田子育て支援 センター	11人	3ヶ月~小学6 年生 (55 人)	891

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	実施 日時	実施場所	従事者 の人数	事業費 の金額 (千円)
			×		

(備考)

- 1 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 2(2)には、定款上、「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

(A4)